



かわはく No.10

CONTENTS

さいたま川の博物館 ~来館者アンケート調査から~	2
テーマ展示	
『荒川と人々の暮らし』【後期】 荒川が育んだ秩父の織物 ...	4
かわはくボランティア 展示解説編	5
川をめぐることば「扇状地」	6
かわはく日誌	7
教育普及活動のご案内	8



平成
11年度

さいたま川の博物館

来館者アンケート調査から

さいたま川の博物館では、楽しみながら学べる博物館をめざして、任意ながら来館者の方々にアンケートにご協力をいただいています。ここでは、それをもとに「かわはく」の現在を考えてみたいと思います。昨年度も実施しており、その結果を「かわはく」の6号でまとめています。比較を容易にするために、同様の手法で報告します。平成11年8月から実施し平成12年3月までの8ヶ月間に1239枚の協力がありました。

来館者の住まい グラフ1

来館者の約80%が埼玉県内です。ついで東京都が9.8%、群馬県が5.1%となります。埼玉県内の内訳ですが、寄居町が13%、寄居町を除く大里郡が16%、周辺の秩父郡、児玉郡、比企郡をあわせると県内来館者全体のほぼ半数を占めます。人口比を考えると、地元志向がやや強いといえるかもしれません。前回調査より14%ほどこの傾向が強まっています。

来館者の年齢や同行者 グラフ2

前回調査と同様10歳代がもっとも多くなっています。これには、アンケートに答えやすい世代という理由も考えられますが、小中学生の利用が多いのも確かです。10歳未満と30・40歳代にややピークが見られるのは、家族での利用が多いことを示しています。同行者の項目でもっとも多いのが家族の57%であったことを考えれば、なお一層わかると思います。

かわはくを知った方法 グラフ3

前回調査同様「彩の国だより」で知ったという方が26%と多いのですが、10%も減少しました。対して「友人から」が5%増、広報誌「かわはく」と「その他」で5%増でした。「彩の国だより」によるの傾向

がやや緩和され、若干ながら他の媒体による手段が増えました。インターネットなどの影響もあるようです。来館回数 グラフ4

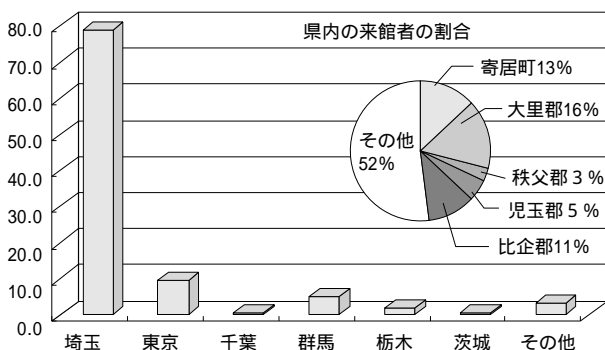
60%の方が初めての来館でした。前回調査では66%でした。2回目、3回目というリピーターがわずかながら増えています。しかし、実数では減少していますので、まだ、未開拓の「初めて」の皆さんに来ていただける方策が必要と考えられます。取材等を通して、「知ってもらえば、来てもらえる施設」との声も聞かせていただいています。

展示や施設 グラフ5・6

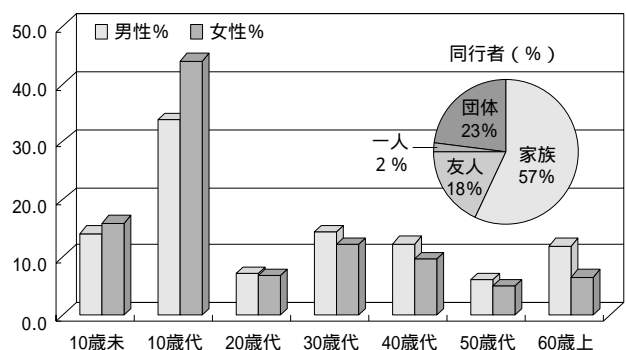
展示内容に関する質問では、全体を通して屋内展示、屋外展示とも「よくわかった」「わかった」の合計が60~70%と相変わらず高い値を示しています。前回調査との比較でも微増微減でほとんど同じ傾向を示しています。アドベンチャーシアターでは「大変楽しかった」「楽しかった」の合計が76.8%、また、荒川わくわくランドでは同様に71.2%と人気度では群を抜いていました。しかし、もっとも注目されるのが「わかりにくかった」の項目です。個々の展示に関する質問は10項目ありますが、そのすべてで「わかりにくかった」と答えた方が減少しています。「ややわかりにくい」においても、7項目において減少しています。減少を示す数字はわずかですが「わかりにくかった」が減るということは、博物館の使命を考えれば大変励みになる事柄です。

当館では、インフォメーション業務や展示解説をプレイリーダーが行っています。このプレイリーダーの「対応」については「大変よい」「よい」が72.1%です。

来館者の住まい (%) 《グラフ1》



来館者の年齢や同行者 (%) 《グラフ2》

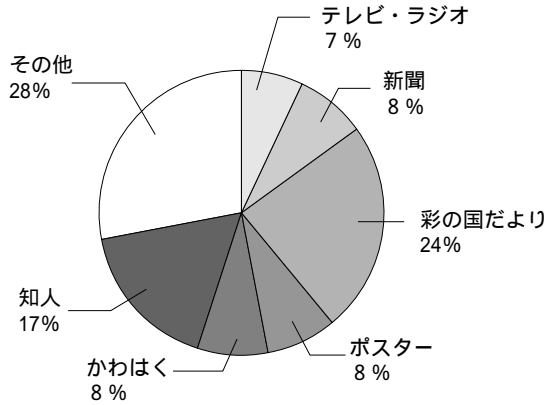




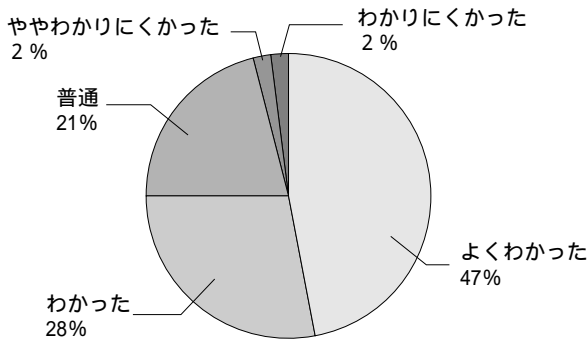
前回調査でも高い数字が残されていましたが、今回はさらにわずかですが増加しています。「説明」においても、「わかりにくい」が減少し、「わかりやすい」が増加し、同様な傾向が伺われます。

今後望まれる事業について グラフ 8

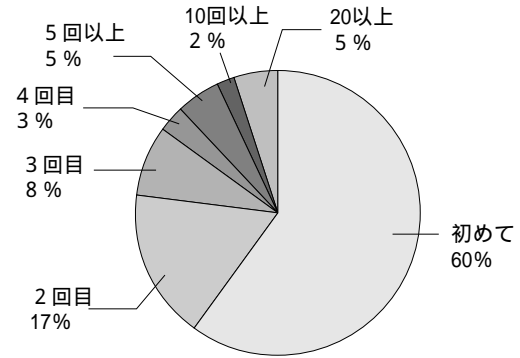
アンケートは、6項目からの択一式と「その他」のかわはくを知った方法(%)《グラフ3》



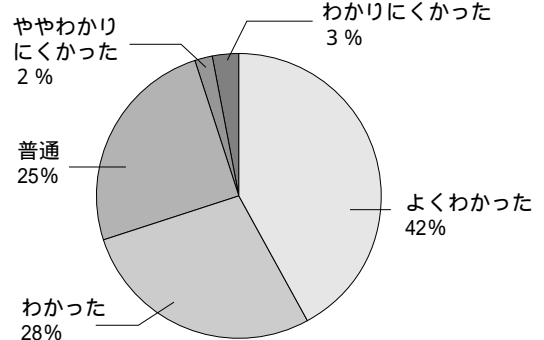
屋内展示 (%) 《グラフ5》



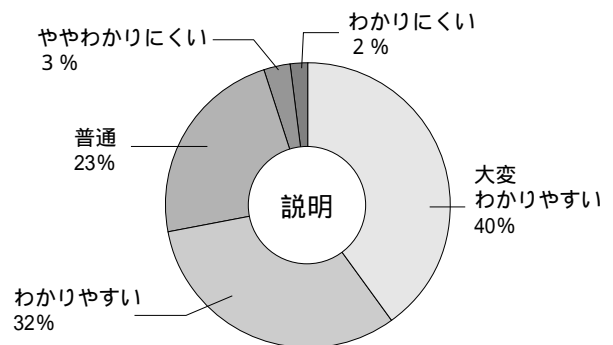
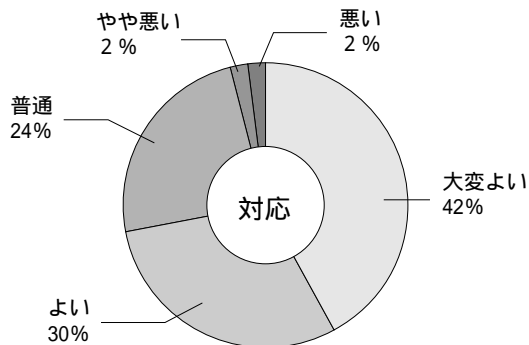
来館回数 (%) 《グラフ4》



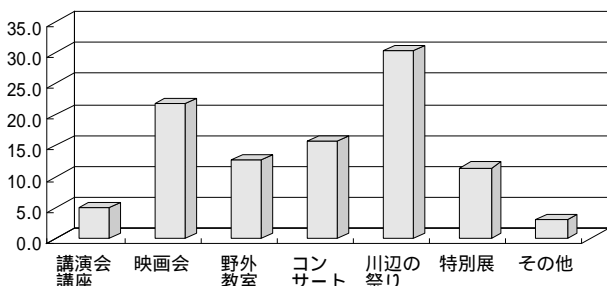
屋外展示 (%) 《グラフ6》



プレイリーダーの対応や説明 (%) 《グラフ7》



今後、望まれる事業 (%) 《グラフ8》



欄における記入式とで聞いています。これによりますと、「川辺の祭り」がもっとも要望が高く30.3%を占めています。ついで「映画会」となるのですが、前回調査では「コンサート」でした。さらに「野外教室」と続きます。講座・講演会はあまり望まれていないようですが、調査の結果には現れないところで、特別展

のワークショップなどは人気があります。概して、体感・体験指向の表れと考えられ、参加体験型の博物館としての当館の特性が反映されている結果だと考えられます。今後はこういう特性を十分に生かし、生涯学習や学校教育を支える情報発信基地として、事業を展開していきたいと考えています。

(学芸一課学芸員 伴瀬 宗一)



平成12年度第3回テーマ展示『荒川と人々の暮らし』【後期】

荒川が育んだ秩父の織物

(開催期間) 平成13年3月17日(土)～5月6日(日)

秩父織物

秩父織物の起源は、古代、大和王権が東国へ勢力をのぼした5、6世紀頃、武蔵国の西のはずれ秩父地方の国造に任ぜられた知々夫彦命が、養蚕と機織を教え広めたのが始まりと伝えられており、今日でも、知々夫彦命を祀る秩父神社の大祭(秩父夜祭り)は、別名お蚕祭りと呼ばれて継承されています。

また、秩父織物は明治初期まで、自家製の生糸を原料として、簡単な仕組みをもつ地機により、農家の女性により自宅で生産されてきました。



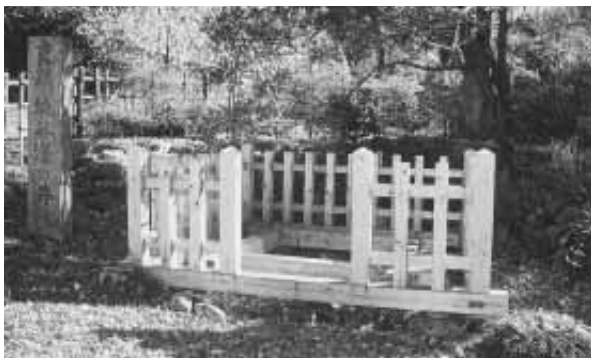
地機を使った機織り

しろやまわ 城谷沢の井

秩父郡横瀬町根古屋には、県指定旧跡「秩父絹発祥の地・城谷沢の井」があります。

この井戸は、1561(永禄4)年、根古屋城に住んでいた鉢形城主北条氏邦の家臣朝見伊賀守慶延が、豊富な湧水と水質のよさに目をつけて、地元の産業として絹布の生産を奨励し、その染色に用いた井戸であると伝えられています。

ここで織られた絹織物は「根古屋絹」といわれ、おもに裏地として用いられました。その後、裏地のことを「根古屋」とも呼ぶようになりました。



城谷沢の井：横瀬町根古屋

養蚕農家小正月飾り



昭和51年1月15日 朽原嗣雄氏撮影

1月14日は、オカイコマツリとか小正月といって、女衆がうるち米の粉で、繭、うぐいす、しょうが、きゅう

り、立臼の形などを模してまゆ玉を作り、梅の木やオッカド(ぬるで)の木などに刺して、オッカド(ぬるで)やニワトコの木で作った、アワボ・ヒエボヤカキバナとともに神棚や座敷などに供え、養蚕の豊作を祈願しました。

写真の飾りは、秩父地方の養蚕農家の小正月飾りで、長瀬町の坂上昭夫氏が制作したものです。養蚕農家の減少とともに、このような飾りをする家も少なくなりました。

解し捺染

明治中期以降、秩父織物は新しい技術を取り入れ、次々と商品開発に取り組んできました。大正時代になると、解し捺染が実用化され、豊かな色彩と丈夫さが評判になりました。とくに昭和初期にかけて、「解し銘仙」として女性に愛され、家庭着として全国に普及していきました。



銘仙流し(横瀬川)
昭和38年 井上光三郎氏撮影

この頃の荒川とその支流では、糊や染料などを洗いすすいで色つやをつけるために、銘仙流しが盛んに行われていました。

(学芸二課主査 野口光一郎)



かわはく ボランティア

展示解説編

「パチパチパチ（拍手）『とてもよく分かりました。一緒に写真を撮らせてください。』」これは、ボランティアが初めての荒川大模型173展示解説「ガリバーウォーク」を行ったときに参加した来館者の言葉です。ボランティアが屋外展示解説を実施するようになって2年目、展示解説の資料を工夫して作成するなど解説に深まりがあります。



ボランティアによるガリバーウォーク

ガリバーウォークとは、ガリバー旅行記のガリバーになった気分での荒川大模型173の荒川源流から河口までを旅し、荒川の地形と流水管理を学習していただくとするものです。

展示解説ボランティア

展示解説ボランティアは、屋外展示・施設の解説を行うために当館が募集したボランティアです。展示解説は持っている知識や技能・学習の成果を発揮する場であり、よりよい解説を行うための学習もボランティア活動のひとつです。また、ボランティアは活動とおして資質を高め自己実現を目指すとともに来館者への学習支援者でもあり、博物館を支えるサポーターでもあるといえます。

ボランティア養成講座



ボランティア養成講座「荒川大模型は語る」この講座は、展示解説ボランティアとなるための基礎講座です。ボランティアの役割や設立目的や展示理念、屋外展示・施設の目的や役割を学習します。受講者は

初対面の方々ですが、回が進むうちにリラックスして学習を進めていました。修了者には修了証書を発行し、展示解説ボランティアとして登録しました。

シナリオ発表会

これは、来館者に対して責任ある解説を行うため、自ら解説シナリオを作成し、実践形式で行いました。「屋内展示と関連させた解説は良かった」「長くなるので聞く立場から考えると話す内容を精選しないとですね」など互いに良いところを参考に解説シナリオに工夫を加えていました。



シナリオ発表：緊張の一瞬です

はじめの解説 何人集まるか不安のなか、声をかけ来館者に集まっていたいただき、ガリバーウォークの始まりです。シナリオに沿って無事終了。参加者から大きな拍手をもらいボランティアの笑顔に心が温まる思いでした。参加者からの質問に対して答えるなど、コミュニケーションが生まれていました。

はじめての解説

はじめての解説 何人集まるか不安のなか、声をかけ来館者に集まっていたいただき、ガリバーウォークの始まりです。シナリオに沿って無事終了。参加者から大きな拍手をもらいボランティアの笑顔に心が温まる思いでした。参加者からの質問に対して答えるなど、コミュニケーションが生まれていました。

ボランティア研修会

ボランティアへの学習を支援し、展示解説に深みや厚みがでるよう研修会を開催しています。浦山ダムや岩淵水門などの現地研修を始め内容 浦山ダム：熱心に見学するボランティア等多彩なものを企画しました。



浦山ダム：熱心に見学するボランティア

ボランティア活動は、このように社会に貢献する活動であるとともに、自己表現・自己啓発の場でもあると考えています。そして、ボランティアとともに親しまれる「かわはく」を創って行きたいと考えています。なお当館ではボランティアを引き続き募集しています。新年度のボランティア養成講座は6月が、詳しくはお問い合わせください。（学芸一課主査 根岸康雄）



川をめぐることば

扇状地

扇状地は、河川が山地から平野にでたところに来た扇形の地形です。山地からの出口が扇の要で、ここを「扇頂」といいます。川は山地から平野に流れ出ると川幅が広がり、山から運んできた大きな石を堆積させるようになります。また川の位置を左右に自由に変わることができるようになるため、大きな洪水がおこると、高くなった河床を避けて低い方へ河道が移動します。そのために扇状の地形ができるのです。

荒川の場合はどこに扇状地ができていますでしょうか。荒川が山間部を抜けて関東平野へ流れ出すのは、このさいたま川の博物館がある寄居町です。ここを扇頂に広大な「荒川扇状地」が形成されています。前号で河岸段丘として紹介した櫛引台地、江南台地などは、この荒川扇状地が削られて次第に低いところを流れるようになったために、河岸段丘となった地形です。

しかし、これらの扇状地が形成されていたのは旧石器時代。実は縄文時代以降、扇状地の扇頂は、寄居より少し下流の川本町明戸付近へ移動したと考えられています。白鳥の飛来地として有名なところですので、訪れたことのある方も多いのではないのでしょうか。この扇状地は半径10kmにわたって広がり、「荒川新扇状地」、「新荒川扇状地」、「熊谷扇状地」となどと呼ばれています。

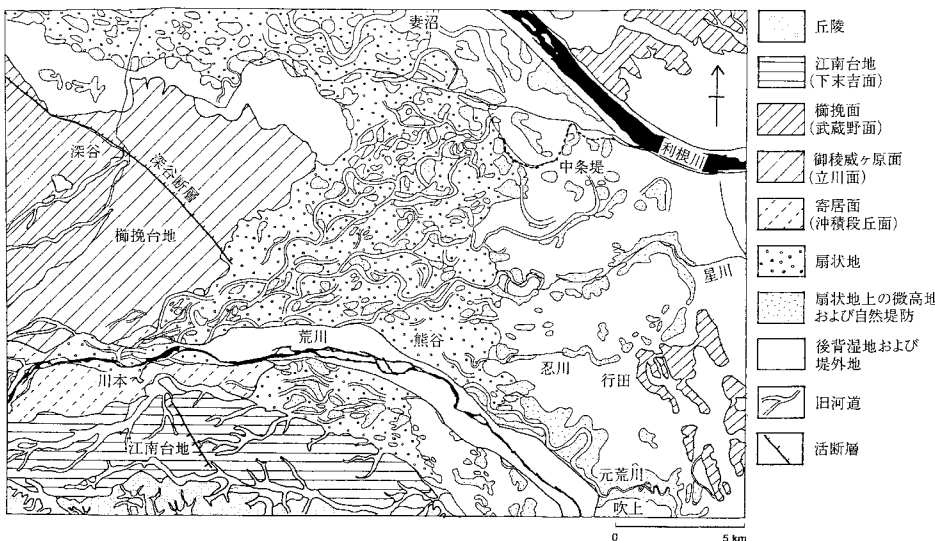
そもそも扇状地の傾斜は案外に緩く、現地では傾斜していることさえ実感できない場合が多いのですが（日本における扇状地の平均勾配は2.0～65.8/1000）、なかでも、「荒川新扇状地」は平均勾配2.9/1000と、とても緩やかなことが特徴です。つまり上流側へ1km進んでもたった3m程度しか高くなりません。

扇状地の表面はどうなっているのでしょうか。図にみられるように、かつての河川の流路跡が放射状に広がっており、その間にわずかな高まりがみられます。このような旧河道や微高地は数10cm～1m程度で、宅地化がすすんだ現在では実際に見てもほとんど分かりません。しかし、古くからの集落は洪水を受けにくい微高地上にあります。また、近世初頭につくられて今でも現役で活躍している用水路は、扇頂付近の六堰より取水し、旧河道を巧みに利用して扇状地全面にうまく配水されるようにつくられています。地形とその利用の仕方から昔の人の知恵が伺えます。

扇状地の特徴は、川原を観察するとよく分かります。まずは扇頂付近にかかる植松橋から川を見下ろしてみましよう。荒川の川幅は狭く、深い崖の下を流れています。次に扇頂より4km下流にかかる押切橋へ行ってみましよう。まず橋の長さの違いに驚くでしょう。植松橋の橋長が約370mであるのに対して、押切橋は

なんと約1400mもあり、約3.8倍の長さになっています。川の様子もずいぶん違ってきます。川原がとても広くなり、直径10～20cm程度の丸い石が一面に見られるはずですが、広い河川敷の一部はゴルフ場や公園として利用されています。このような川原のようすは、ちょうど扇状地の末端部にあたる大芦橋辺りまで続いています。

表紙の写真もご覧下さい。
(学芸第一課学芸員井上素子)



荒川新扇状地の微地形 (『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』より引用)
扇状地上には放射状に広がった旧河道や微高地がみられます。

文献 『大学テキスト 日本の扇状地』 齊藤享治著. 古今書院. 1998.
『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』 貝塚爽平他編. 2000.
『荒川総合調査報告書 1—自然』 埼玉県. 1987.



かわはく日誌

2000年12月1日～2001年3月31日

荒川図画コンクール入選作品展

12月5日(火)～17日(日) 建設省荒川上流工事事務所主催



12月9日(土) 土曜おもしろ博物館「砂絵を描こう」色や粒の大きさが異なる砂を使って砂絵を描く(65人)



土曜おもしろ砂絵を描こう

12月9日(土) 子ども放送局「南極の世界」他(24人)
土曜おもしろ博物館「砂絵を描こう」荒川の砂を使って砂絵を描く(65名)

12月10日(日) ガリバーウォーク、ボランティアによる荒川大模型の展示解説(27人)

12月17日(日) 映画会「絵の中のぼくの村」(32人)
子どもが描く荒川の絵画作品展

12月23日(土)～2001年1月20日 当館が募集した荒川を描いた子どもたちの絵を紹介

12月23日(土) 子どもが描く荒川の絵画作品展表彰式、優秀作品の受賞者を表彰する。幼児の部・小学校低学年の部・小学校高学年の部・中学校の部に分けて三賞の表彰状と記念品を授与(42人)
子ども放送局「わたしの町～子ども編集委員企画番組～」他(63人)

ガリバーウォーク、学芸職員による荒川大模型展示解説(29人)

第3回テーマ展示

「荒川と人々の暮らし」【前期】

荒川が育んだ秩父の織物 1月6日～3月11日
河岸段丘域である秩父地方では、織物産業が盛んであったことを紹介しました。展示資料88点

1月13日(土) 土曜おもしろ博物館「草木染めチャレンジ」川辺の植物で布などを染める(31名)
川辺の植物染料を使って布を染める(31人)

子ども放送局「国会大捜査線」他(28人)
1月21日(日) 映画会「石を架ける」(40分)/2回上映
石橋の歴史と橋に託した人々の夢を描いた物語(7人)

1月21日(日) 荒川劇場：川と民謡
川にまつわる創作民謡の上演
出演：塗民謡会(秩父市)

1月28日(日) カワシロウ講座後期「暮らしと水」第1回「川に親しむ」石川友一氏(秩父の環境を考える会会長)(26人)
ボランティアシナリオ発表会(6人)

2月10日(土) 土曜おもしろ博物館「身近な水を調べよう」身近な水を採取して水質を測定する(20人)

2月10日(土) 土曜おもしろ博物館「身近な水を調べよう」川の水の汚染を調べる(20名)
子ども放送局「宇宙への旅」「フィルムケースロケットづくりの挑戦」他、フィルムケースロケットづくりの体験学習を行った。(44人)

2月18日(日) 映画会「せんぼんまつばら」(90分)
輪中の村を護るために薩摩から運ばれた松原の物語(38人)

2月24日(土) 子ども放送局「2002年ワールドカップへの道」ほか(9人)

2月25日(日) カワシロウ講座
「日常生活と川」講師：沼野勉(さいたま川の博物館学芸第一課長)

私たちの命と暮らしを支える水や川の恵みを明らかにし、生活排水の行方を探った。(36人)

2月25日(日) ガリバーウォーク
ボランティアによる荒川大模型の展示解説(23人)

教育普及活動のご案内 - 楽しく、ためになる「かわはく」-

3月

10日(土) 土曜おもしろ博物館「コンニャクづくりにチャレンジ」コンニャク水車で製粉した粉でコンニャクづくりを体験する。 10:30~12:00 14:00~15:30 (申込順)

平成12年度第3回テーマ展示

「荒川と人々の暮らし(後期)~荒川が育んだ秩父の織物~」3月17日(土)~5月6日(日)

荒川の河岸段丘域である秩父盆地では、崖下から流れ出す「湧き水」や井戸水を、生活や産業の水として大切に利用してきた。今回の展示では、この豊かな水を利用して発展してきた産業の一つとして秩父の織物を紹介する。

18日(日) 映画会「三ねん寝太郎」怠け者寝太郎が一念発起して用水路を開く物語。 13:30~14:20 14:30~15:20

20日(火) 川の音コンサート、フルートによる木管4重奏 出演:彩の国アーティスト(申込順)

25日(日) カワシロウ講座「川の防災対策」
講師:佐々木春喜氏(関東地方整備局河川管理課課長補佐)(申込順)

4月

15日(日) シネマかわはく「地球SOS それ行けコロリン」環境保護の大切さを伝えるため地球にやってきたコロリンと少年ろじ太の冒険物語。 13:30~14:10 14:30~15:10

28日(土) ワークショップ「川原の草木で染め物をしよう!」伝統工芸士の指導により、絹のハンカチ等の絞り染めをする。13:00~16:00費用は保険代100円その他材料費(申込順)

5月

12日(土) 土曜おもしろ博物館「川原の花で押し花をつくろう」春の川原に咲く花を観察し、押し花カードを作り、生き物に親しむ。 10:30~12:00 14:00~15:30(申込順)

写真展『荒川』

5月19日(土)~6月24日(日) 県民の皆様から寄せられた写真の中から、荒川に生きる人々の姿を紹介する。

20日(日) シネマかわはく「那須疎水物語」那須野が原の原野に「命の水」を引く先人達の血と汗と涙の物語。 13:30~13:50 14:30~14:50

27日(日) 野外教室「荒川を歩く」熊谷市大麻生から荒川大橋まで、史跡や自然を訪ねながら春の荒川を観察する。9:30~15:30(申込順)

6月

ボランティア養成講座

2日(土) 第1回「埼玉の河川とかわはく」13:30~15:30
9日(土) 第2回「屋外施設の配置と機能」13:30~15:30
16日(土) 第3回「荒川大模型は語る」13:30~15:30

9日(土) 土曜おもしろ博物館「水鉄砲をつくろう」昔の遊びの一つである水鉄砲を作り、的当てなどのゲームを通して水の力を考える 10:30~12:00 14:00~15:30(申込順)

17日(日) シネマかわはく「筑後川」人々の営みを通して筑後川を鮮やかに描きだすドキュメンタリー。

7月

14日(土) 土曜おもしろ博物館「川の魚を観察しよう」溪流観察窓の魚を題材に魚の体型と生態のの関係を学ぶ。 10:30~12:00 14:00~15:30(申込順)

15日(日) シネマかわはく「みなしごハッチ」みなしごハッチがママに会える日を信じてけなげに旅をする。13:30~14:40

平成13年度特別展

「体感! 溪流釣り~さかなの秘密、道具の科学~」

7月20日(金)~9月9日(日)

近年盛んになった溪流釣りを素材に、魚の生態、道具の力学・物理学を体験的に展示する。溪流釣りの楽しさ、河川生態系と人々との関係などを探る。魚の目になり気持ちになろう。道具のはたらきの謎を解明してみよう。魚の気持ちと道具の科学を知れば、君も釣り名人になれるかも。



❗ 申込順のものは約1ヶ月前から受け付けています。参加はどれも無料で、定員になりしだい締め切ります。

インターネットでも情報が紹介されています!
<http://www.kumagaya.or.jp/kawahaku>

【お願い】 行事は都合により変更になることもあります。ご了承ください。川の情報もお寄せください。

表紙の解説 荒川新扇状地を流れる荒川。扇頂付近の六堰(写真奥)から川幅が急速に広がるようすがよくわかります。手前の橋は植松橋。詳しくは「川をめぐることば」(P6)をご覧ください。(写真提供:荒川上流工事事務所)

編集・発行

さいたま川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39

TEL048-581-7333/FAX048-581-7332

2001年3月28日発行